

運輸代行フロント front

28

オリエント代行(宇都宮市)の岡野社長は、トラックドライバーを経て運輸代行業に参入した。36歳。2015年10月に開業してまだ日が浅いが、「グレーなイメージを持たれている業界を明るくしたい。従業員が胸を張れるように」と、適正化へ決意を示す。随伴

オリエント代行(栃木・宇都宮市)



「基本料金は最低でも3000円必要」と、低価格競争を危くする岡社長

「従業員が胸を張れるように」

車を4台保有し、従業員は13人。身のりや言葉遣いは基本の徹底を重視してスそそつなくこなす。ポ

イントカードの発行で固定客の確保につなげ、インターネットで検索して注文する客も増えているため、ホームページの充実にも力を入れる。

岡社長のこだわりは、随伴車に軽自動車ではなく、普通車を使用すること。「夜間、大型トラックが猛スピードで走っている」と、衝突時のドライバーの安全に配慮していることだ。

免許を従業員に取得させるため、積極的に教習所に通わせている。全国運輸代行協会に加入し、適正化問題に関心が高い。特に随伴車に客を乗せる白タク行為が目立つといい、行政の取り締まり強化を訴える。「お願いするだけでは聞き入れてくれない。まずは決められたことを守る」。昨年10月、制度改正に対応した屋上表示灯にすぐさま取り替えた。「全連協への加入を呼びかけ、適正化に向かう仲間を増やしたい」と意欲を燃やす。